

生活支援体制整備事業について —SC・協議体の役割と活動のポイント—

齋藤 征人 (北海道教育大学函館校)

令和6年度地域づくり加速化事業・ブロック別研修
(北海道ブロック)

- と き 2025年2月18日(火) 14:00～16:30
- ところ ZOOMによるオンライン開催



プロフィール

齋藤 征人 (さいとう まさと)

- ・宗谷管内枝幸町生まれ。
- ・函館～旧上磯町で育つ。
- ・民間企業～大学・短大(教員)～障がい者施設(支援員)～廃校跡施設の再生プロジェクト(地域支え合い体制づくり拠点事業コーディネーター)を経て、2014年から現職。社会福祉士。
- ・専門は、ソーシャルワーク・地域福祉。
- ・函館市地域包括支援センター運営協議会 会長(2021年～現在)
- ・北斗市北斗市総合戦略検討・推進会議 会長(2020年～現在)
- ・北斗市地域公共交通活性化協議会 会長(2020年～現在)
- ・福祉コミュニティエリア整備事業(生涯活躍のまち形成事業)地域再生協議会 会長(2016年～現在)
- ・これまでに、江差町、厚沢部町、八雲町、長万部町、松前町、浦臼町などで生活支援体制整備事業の支援にかかわる(アドバイザーなど)



公的なサービスの限界

- 急激に進む高齢化に伴って、公的サービスや医療・介護施設といった地域の資源が不足し、今後高齢者のニーズ・課題等に十分に对应されないことが懸念されています。
- 地域の住民一人ひとりから専門職、地域の住環境も含めて、それぞれの役割を果たす（地域の資源を総動員する）ことで対応しようと「地域包括ケアシステム」の構築が進められています。
- 地域包括ケアシステムにおける「生活支援・介護予防」の大きな柱が「生活支援体制整備事業」です。

誰もが住み慣れた地域で最後まで安心して暮らし続けられる地域をめざして

- 皆さんは、10年後、20年後、そして将来に向けて、自分たちのまちをどのような地域にしたいですか？
- 今、全国の市区町村で、住民も行政も一緒になった新しい地域づくりが始まっています。中でも一番の柱は、住民が主体となった助け合い活動の推進です。
- それらの推進役として、新たに「生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）」と「協議体」という制度がつけられました。

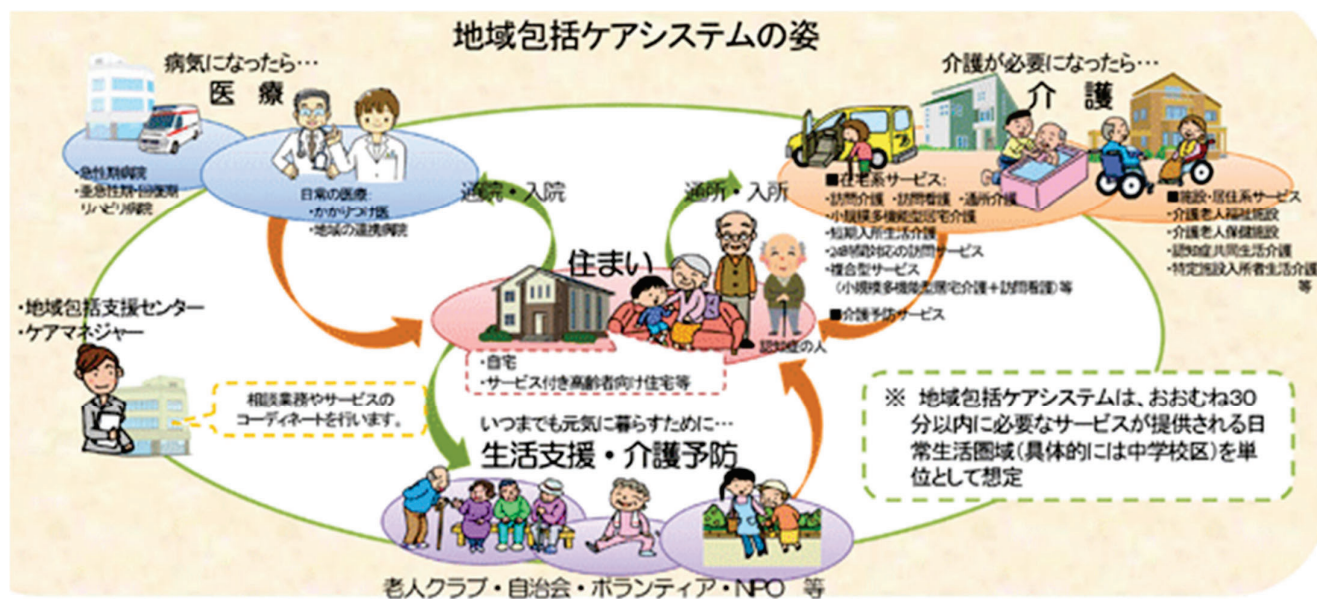
生活支援体制整備事業の目的

- ・ 高齢者の尊厳と自立した日常生活を地域で支えていくためには、総合事業として実施するサービス・活動事業及び一般介護予防事業並びに地域住民を含めた多様な主体による高齢者の自立した生活や介護予防に資する総合事業に該当しない多様な活動又は事業（生活支援・介護予防サービス）について、事業間での連動を図りながら実施することが重要である。
- ・ このため、生活支援体制整備事業においては、市町村が中心となって、元気な高齢者をはじめとする多世代の地域住民が担い手として参加する住民主体の活動団体、地域運営組織、NPO法人、社会福祉法人、社会福祉協議会、地縁組織、協同組合、民間企業、シルバー人材センター、介護サービス施設・事業所、老人クラブ、家政婦（夫）紹介所、商工会、民生委員等の多様な主体による多様な生活支援・介護予防サービスの提供体制を構築し、地域の支え合いの体制づくりを推進していくことを目的としている。

生活支援体制整備事業の実施内容

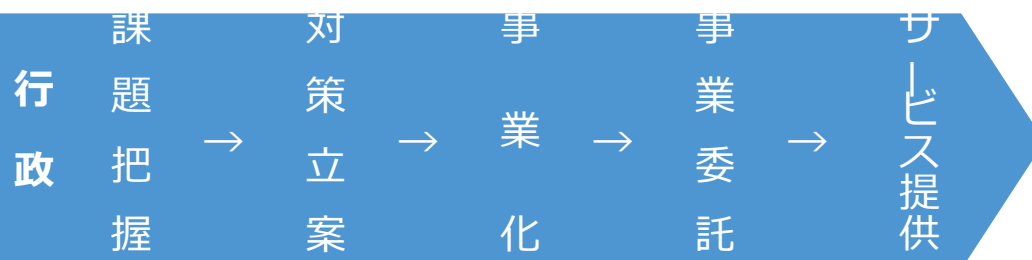
- ・ 生活支援体制整備事業は、生活支援・介護予防サービスの資源開発やネットワーク構築等のためのコーディネート機能を果たす者（生活支援コーディネーター＝SC）の配置及び協議体（地域の多様な主体により構成される生活支援・介護予防サービスに関する企画、立案、方針策定等を行う場）の設置等を行うことにより、市町村による多様な主体による多様な生活支援・介護予防サービスの提供体制を構築し、地域の支え合いの体制づくりを推進するもの。

生活支援・介護予防は 地域包括ケアの「肝」

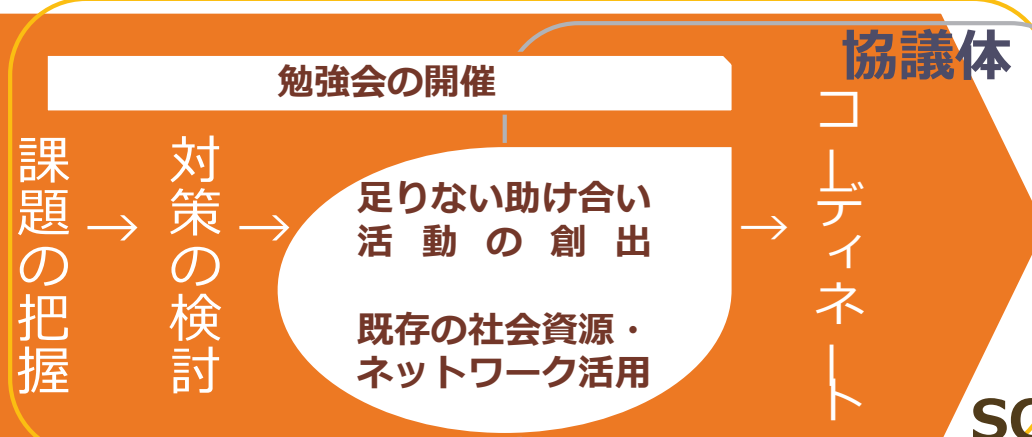


いくら医療・介護連携が進んでも、生活支援・介護予防が分厚くないと、地域包括ケアは「砂上の楼閣」化してしまう。

行政も住民も意識改革が必要



サービス利用
住民



社会
住民
助け合い活動
参加利用

4つの助

自 助

住み慣れた地域で生活するために、自費で民間サービスを利用したり、介護予防や健診・検診等で健康管理を行い、自分の力で課題を解決する

互 助

家族や友人、近所、ボランティア等地域住民がお互いに助け合い、それぞれの課題を解決する

共 助

社会保険方式の医療・介護サービス等を利用して課題を解決する

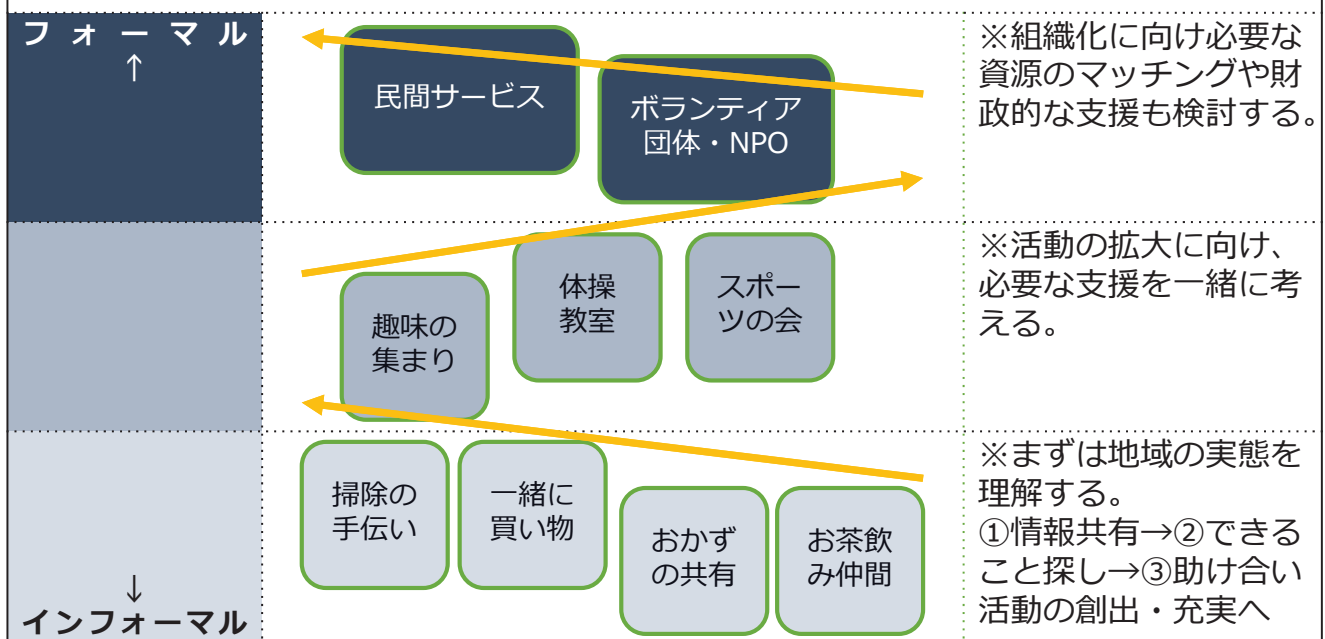
公 助

生活保護、権利擁護、虐待防止等自治体が提供するサービスを受けて課題を解決する

このように「地域包括ケアシステム」では、公的な仕組みである「共助」と「公助」による支えだけではなく、自らを助ける「自助」とお互いを助ける「互助」による支えが重要となり、住民自身も地域の重要な支え手となる。

協議体とSCの活動イメージ

協議体やSCは、地域資源や住民の交流の状況を把握した上で、必要な支援をすることで、より強い生活支援の担い手になっていくことを後押し。



孤立高齢者、介護や死亡リスク1.7倍 筑波大など調査

- 一人暮らしで人付き合いが少なく社会的に孤立した高齢者は、そうでない人に比べ、介護が必要な状態になったり死亡したりするリスクが1.7倍高いとの調査結果を筑波大などの研究チームがまとめた。
- 社会的な孤立に加え、運動・認知機能など心身の活力が低下した「フレイル」という状態になった場合、要介護や死亡の発生率はそうでない人の2.3倍と、さらにリスクが高まった。
- 研究チームの山田実・筑波大准教授（老年学）は「介護予防で運動の呼び掛けは一般的に行われているが、例えば『みんなで話しましょう』といった社会的な交流を促す取り組みも重要だ」と指摘している。〔共同〕

SCの役割

活動のポイントは「できること探し」

(1) 生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）の配置 ⇒多様な主体による多様な取組のコーディネート機能を担い、一体的な活動を推進。コーディネート機能は、以下のA～Cの機能があるが、当面AとBの機能を中心に充実。

(A) 資源開発	(B) ネットワーク構築	(C) ニーズと取組のマッチング
○ 地域に不足するサービスの創出 ○ サービスの担い手の養成 ○ 元気な高齢者などが担い手として活動する場の確保 など	○ 関係者間の情報共有 ○ サービス提供主体間の連携の体制づくり など	○ 地域の支援ニーズとサービス提供主体の活動をマッチング など

エリアとしては、第1層の市町村区域、第2層の中学校区域があり、平成26年度は第1層、平成29年度までの間に第2層の充実を目指す。

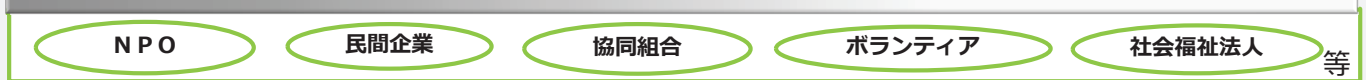
- ① 第1層 市町村区域で、主に資源開発（不足するサービスや担い手の創出・養成、活動する場の確保）中心
- ② 第2層 中学校区域で、第1層の機能の下で具体的な活動を展開

※ コーディネート機能には、第3層として、個々の生活支援・介護予防サービスの事業主体で、利用者と提供者をマッチングする機能があるが、これは本事業の対象外



(2) 協議体の設置 ⇒多様な関係主体間の定期的な情報共有及び連携・協働による取組を推進

生活支援・介護予防サービスの多様な関係主体の参画例



※1 これらの取組については、平成26年度予算においても先行的に取り組めるよう5億円を計上。

※2 コーディネーターの職種や配置場所については、一律には限定せず、地域の実情に応じて多様な主体が活用できる仕組みとする予定であるが、市町村や地域包括支援センターと連携しながら活動することが重要

(厚生労働省資料より)

SCの業務内容

第1層	第2層	生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）は、地域住民や多様な主体との対話やネットワークの構築を行うことを通じ、関係者の間で地域の現状や将来像の共有を図るとともに、地域住民や多様な主体ごとの多様な価値判断を尊重しながら地域での共創を推進するため、次のaからeまでに掲げるコーディネート業務を実施する。
↑	↑	a 高齢者の支援ニーズ・関心事や地域住民を含む多様な主体の活動の状況の情報収集及び可視化
		b aを踏まえた、地域住民や多様な主体による生活支援・介護予防サービスの企画・立案、実施方法の検討に係る支援（活動の担い手又は支援者たり得る多様な主体との調整を含む。）
		c 地域住民・多様な主体・市町村の役割（地域住民が主体的に行う内容を含む。）の整理、実施目的の共有のための支援
		d 生活支援・介護予防サービスの担い手（ボランティア等を含む。）の養成、組織化、具体的な活動とのマッチング
		e 支援ニーズと生活支援・介護予防サービスとのマッチング

(A) 資源開発

- 地域に不足するサービスの創出
- サービスの担い手の養成
- 元気な高齢者などが担い手として活動する場の確保など



資源開発の実践例

資源開発のためのニーズ調査

- 全戸訪問にてニーズ把握（住民との関係づくり）。
- 寄り合い、各種サークル、集いの場などを「センサー機能」としている（効率的なニーズ把握）。
- 電話や往復はがきなどでニーズ把握（安否確認とコミュニケーション）。

地域に不足するサービスの創出

- 協議体と中心とした買い物情報、地域資源マップ等の制作。
- 既存の団体（高齢者事業団等）との調整により、有償ボランティア組織づくり。
- 地域課題を解決するための組織作りとNPO化。

資源開発の実践例

サービスの担い手の養成

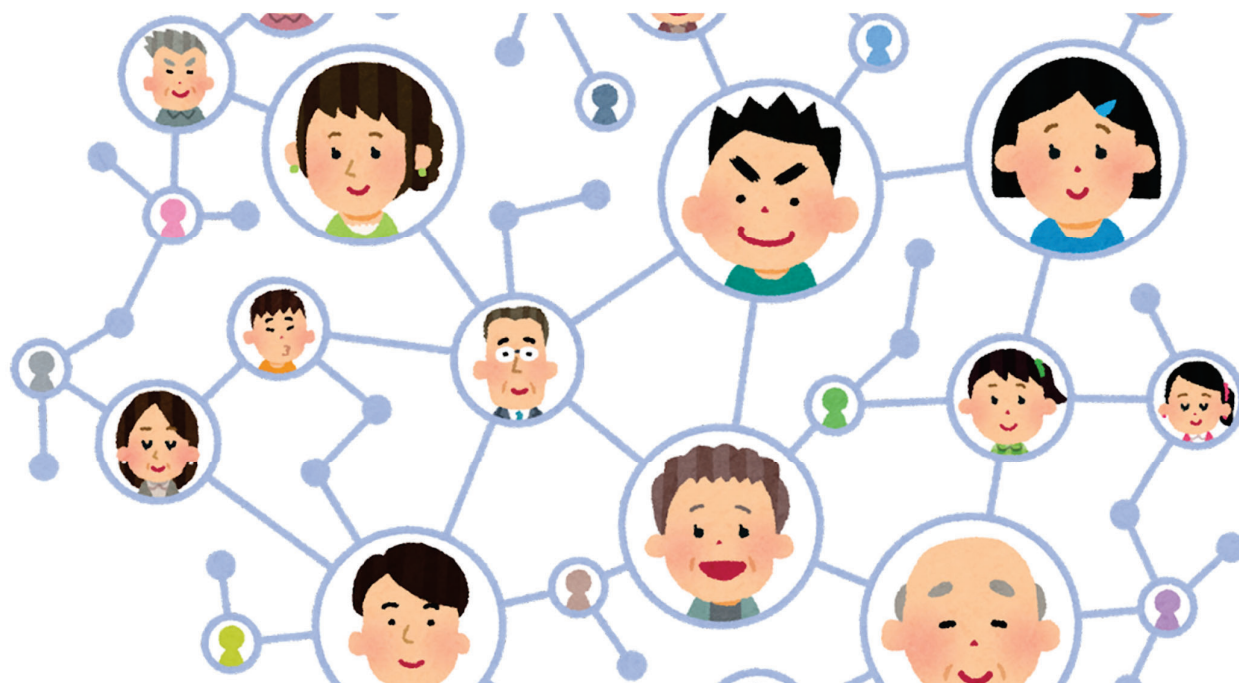
- ・生活支援サポーター、くらしのサポーター等の人材養成。
- ・講演会やワークショップなどの継続的な開催による協力者層の拡大。
- ・地域の小学校、中学校、高校などとの情報共有や連携体制の構築（協議体への参加等）。

活動する場の確保

- ・既存の喫茶店、寺院、コミュニティカフェなどの活用。
- ・空き家、商店跡などを活用したサロンの自主運営。
- ・テナントビルの一部を市民活動の場として行政が確保。SCや住民有志が常駐して管理運営を協働して担う。

（B）ネットワーク構築

- ・関係者間の情報共有
- ・サービス提供主体間の連携の体制づくりなど



ネットワーク構築の実践例

関係者間の情報共有

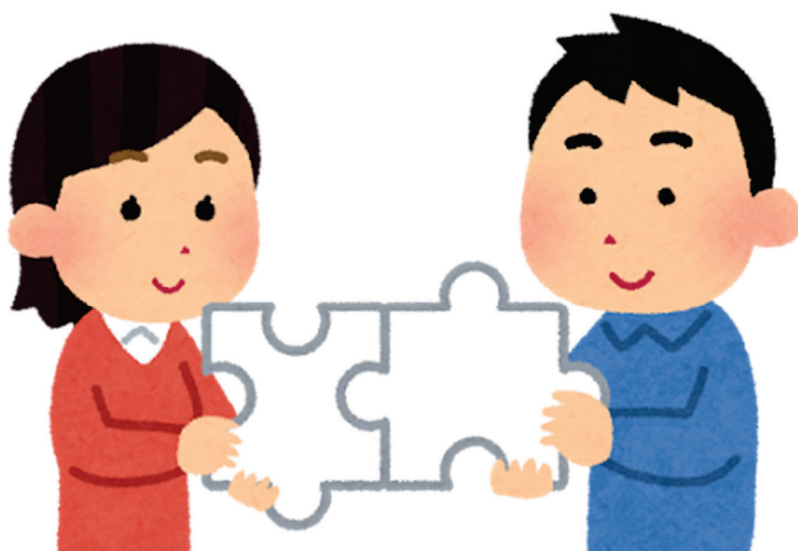
- 第1層協議体への第2層SCの参加。
- 第1層協議体に医療・介護等の関係者をあえて入れず、多様な主体（民間事業者、地域おこし協力隊など）を巻き込む。
- 第1層協議体に学校の先生や生徒が参加（第1層協議体会長を校長先生が務め、SCの相談にのるケースも）。

サービス提供主体間の連携

- 地域包括支援センター、社会福祉協議会、高齢者事業団等との連携（情報交換、役割分担など）。
- 町内会、老人クラブ、民生委員児童委員との連携。
- まちづくり会社、福祉サービス事業所、便利屋・御用聞きなどとの連携。
- 近隣SC、協議体との交流、情報共有。

（C）ニーズと取組のマッチング

- 地域の支援ニーズとサービス提供主体の活動をマッチングなど



ニーズと取組のマッチングの実践例

ニーズと取組のマッチング

- ・幼稚園児の散歩×高齢者の運動習慣づくり。
- ・寺院の活用促進×住民の集いの場づくり。
- ・喫茶店×体操の定期開催により喫茶店の売り上げもアップ。
- ・リングブル集めや花壇整備など学校側のニーズ×協議体が協力することで協力体制づくり。

コロナ禍での活動上の工夫

- ・少人数でマスクづくりに取り組み、道の駅で販売。
- ・屋外でのラジオ体操の定期開催と困りごと相談。
- ・町内会と協力して、屋外でのラジオ体操を定期開催。持ち寄りなどにより住民の交流の場に。
- ・屋内でもできる体操やフレイル予防策を協議体で検討し、情報発信。

生活支援コーディネーターと協議体

第 1 層 S C

- ・市町村区域で、主に資源開発（不足するサービスや担い手の創出・養成、活動する場の確保）中心。



【協議体】

主に地域全体のシステムづくり。既存の地縁団体等によって組織され、行政側からの提案やSCの活動の追認のみになりがち。

第 2 層 S C

- ・中学校区域で、第1層の機能の下で具体的な活動を展開。



【協議体】

主に具体的な活動づくり。第1層の活動が停滞している場合、地域によってはSCのブレーン集団かつ試行するための実行部隊として位置づける場合もある。

なんでもSCがやってあげ、住民に喜ばれることは「わかりやすい実績」づくりにはなるが、住民の互助意識の底上げにはならない（行政依存がSC依存にスイッチするだけ）。互助意識の醸成→互助体制の構築にはこれまで高齢者の生活支援に関与してこなかった**多世代・多様な分野とのコラボが不可欠**。

協議体の役割

SCが協議体を頼りにできているか

SCが協議体を頼りにできているか

- 協議体は、生活支援コーディネーターをサポートし、互助を中心とした地域づくりを住民主体で進め、助け合い活動（仕組み）を共に創出・充実する組織（メンバー）。
- SCを、住民ならではのローカルな情報や、その団体に所属しているからこそそのアイディア、これまでつくってきたネットワークにつないであげることによってバックアップする支援部隊が「協議体」。



既存の地縁団体等によって組織され、SCの活動の追認のみ、会議も年1～2回になっているケースも。

SCは「理論上は」孤立しないはず（一番の相談相手は、協議体メンバー）。

コロナ禍での協議体の活動例

A町 第1層協議体

- 設置以来、協議体メンバーの声から隔月（年6回）開催。コロナ禍でもほぼ休むことなく開催。
- 買い物困難地域に「買い物お助け情報」の配布試行。使い勝手をモニター調査を実施。
- 地域資源ガイドブックの制作に着手（A町版タウンページ）。
- 協議体内外の協力者により、町内を走る路線バスのかんたん乗り方ガイド（動画）を制作。
- 協議体メンバーのやりがい感。

B町 第1層協議体

- コロナ禍で開催見送りが続く。
- コミュニティカフェなどを会場に、ワークショップ形式で開催してきたが、公共施設の会議室での対面開催にスイッチ。
- 参加人数が低迷。開催方法の抜本的な見直しが必要に。
- 広い町内の各地域を巡回し、各地域の町内会長などを招いた協議体などができないか検討中。
- SCの活動は積極的に展開できている（協議体メンバーのやりがい感は…）。

コロナ禍での協議体の活動例

C町 第1層協議体

- SCの交代、退職が相次ぎ、取組が安定しない状態が続く。
- 交代後1年目SC業務を学び、いよいよこれからという時に、また交代してしまうため、協議体でも議論も継続せず、話し合うだけで具体的な取り組みに移行できない。
- 協議体自体は継続的に開催できている（協力的な理解あるメンバーに支えられている）。

C町 第1層協議体のその後…

- 現SCが2年目となり、協議体のなかにテーマ別「部会」を設置。
- ニーズ調査から優先的に取り組むべき課題を「移動」「ボランティア」「生きがい」の3つに絞り込み、協議体メンバーの関心の高い部会にそれぞれ入ってもらうことに。
- 協議の過程で、「移動」「ボランティア」の両部会の協働により、移動支援の試行を町内で複数回実施。

C町第1層協議体 協議体会議の初期の試行錯誤

ここまでのひな型と、協議の雰囲気づくり（決めごとをするのではなく情報・アイデアを出し合うこと。視点がミクロになりがち…）に苦労しました。

- ①実態調査から得られた情報を整理し、地域課題を提示する。
- ②そのなかで協議体に解決のための知恵を求めたい内容について、SCから協議体へ諮る。
- ③協議体構成員が情報・意見交換する（決める場ではない）。
- ④意見がまとまったら、結果をSCに託す（調整をお願い）。
 - ・ただし、行政への要求ではなく、自分たちでできそうなアイデア群。
 - ・それらを全町的に取り組めば、課題が少し解決に向かいそうなこと。
 - ・もしも、時間が来てしまったら次回までの宿題（継続協議）にする。
- ⑤総評（アドバイザーをしている市町の場合、齋藤が担当）
- ⑥次回の日程（宿題等を含む）確認、散会

協議体の開催例（C町の場合）

設置時プレ（3月）

- ・辞令交付
- ・要綱の説明
- ・参加者の自己紹介
- ・生活支援体制整備事業の説明（齋藤）
- ・実態調査に基づき、地域課題や社会資源に関する意見交換（進行:SC）
- ・総括（齋藤）



協議体の開催例（C町の場合）

第1回協議体（5月）

- ・ 前回の振り返り（齋藤）
- ・ 参加者からの問題提起と意見交換（進行:SC）
 - ①情報共有・拡散
 - ②ポイント制・地域通貨
 - ③地域交通・移動
- ・ SCより問題提起と意見交換（進行:SC）
 - ・ 既存サロンの活性化
- ・ 総括（齋藤）



協議体の開催例（C町の場合）

開催月	協議体（第1層）	講演 & 意見交換会（第2層相当）	備考
5月	1 【主な課題の整理】 ①情報共有・拡散 ②ポイント制・地域通貨 ③地域交通・移動 ④サロンの活性化		有償ボラの組織化に着手（社協）。
6月		1 サロンの活性化策に関する意見交換（3グループ）	
8月	2 地域交通・移動に関する集中協議	2 サロン活性化に関するアイデアコンペ	協議内容を町に報告・協議。
9～11月		未定 サロン活性化策の試行	
11月	3 サロン活性化（試行結果等）に関する集中協議	3 試行結果の振り返り	
未定	4		情報共有・拡散に関する協議。

学校との連携例（D・E町の場合）

D町の協議体

- D町では中学校の校長先生らが協議体へ委員として参加することに。
- 中学生も生徒会執行部を中心に毎回数名が会議へ参加して、協議体のメンバーとともに、リングブル回収や花壇整備に取り組んでいる。

E町の協議体

- E町の協議体の会長は高校の校長先生、副会長は元地域おこし協力隊員というユニークな布陣。
- 地元の幼稚園や小学生、高校生との連携が進んだ。
- 現在は住民主体の活動が活性化し、協議体の活動頻度は低下しつつある。

協議体の役割は何か？

「協議体」…地域の多様な主体により構成される生活支援・介護予防サービスに関する企画、立案、方針策定等を行う場。多様な主体間の情報共有及び連携・協働による体制整備を推進することが目的。

より具体的には…

- SCの組織的な補完
- 地域ニーズの把握（アンケート調査やマッピング等）
- 情報の可視化の推進
- 企画、立案、方針策定を行う場（生活支援・介護予防サービスの担い手養成に係る企画等を含む）
- 地域づくりにおける意識の統一を図る場
- 情報交換・働きかけの場（地域課題の問題提起、取組の具体的協力依頼、他団体の参加依頼等）

まとめにかえて

互助体制づくりは新たな文化づくり

目指すまちの姿によって 必要なものはちがってくる

Xのようなまちを目指す

- 鉄道は不可欠。できれば新幹線も…。
- バスも1時間に1本では足りない…。
- 学校（できれば大学）を誘致して、若者増を…。
- スーパーばかりで遊ぶところがない…。
- デパートやアウトレットモールがほしい…。



わたしたちが目指すのは
どんなまち？

わがまちビジョン が必要！

目指すまちのために ないもの・必要なもののうち…

自分たちでは何ともならない

〇〇町役場 △△課



自分たちでなんとかできそう

あるもの		あるものでないものをやりくりする	ないもの	
自然			店	
食べ物			交通	
場所			人材	
交通			お金	
人材			場所	
少子化			嫁	
その他			病院	
			その他	

地域づくりの「文化」の醸成

- 今後30～50年間、少ない人手と財源で、町内に暮らす住民の暮らしを守ってくためにはどんな工夫ができるか。もはや、包括以外の職員さんも、無関心・他人事ではいられないはず。
- これらが形式的なものにとどまっては、介護保険料など抑制できないばかりか、地域生活の困りごとの多くは、従前どおり行政又は社協頼みになる。とはいえ、税収は減るし、人口は増えない…。

継続的な地域づくりの「文化」を醸成する作業

住民主体への移行は 一足飛びにはいかない

- だからこそ、高齢者施策以外の担当部門や、多世代・多様な主体の参加と共創が重要（多世代交流の場など、高齢者の支援のみならず、その結果として、多様な世代の支援に資することも想定される）。
- 住民主体の互助体制づくりの必要性について、強い自覚をもつこと。やりすぎない、お金で解決しない「覚悟」も時には必要。

そのための仕組みとして「SC」「協議体」という仕組みがあること。

そして、住民に互助意識を効果的に浸透させるための各地独自の仕掛け（ワークショップなど）の検討。

生活支援コーディネーターによる 地域住民と地域の多様な主体との連携の推進

- 高齢者の目線に立ち、地域で一層の多様なサービス・活動の充実を図るためには、生活支援体制整備事業を活用し、地域住民の関心事項を引き出し、高齢者の日常生活を取り巻く様々な活動とをつなげていくことが重要。
- このため、生活支援体制整備事業について、住民や地域での活動に取り組む民間企業等とをつなげるための活動についての評価を拡充する。

生活支援コーディネーター・協議体が行う住民参画・官民連携推進事業（新設）

タウンミーティングやワークショップの開催等

多様なサービス・活動の実現に向けたプロジェクト化

多様なサービス・活動を地域に実装するための試行的実施に係る支援

地域がチームとなって総合事業を展開

地域共生社会への挑戦

- **すべての住民の「意識改革」を**

地域の問題を「自分ごと」に。まちづくりは人づくり！

- **わがまちの「戦略会議」を**

ニーズ調査とワークショップが「王道」。困り事のオープン化を！

- **住民参加は「多様」な層を**

子どもたちの存在が「人」や「コミュニティ」を豊かにつなぐ！

- **本業主義とコラボで「一石二鳥」を**

新しいこと・慣れないことを無理して始めるのではなく、既存の取り組みの延長・拡大（本業主義）や、有機的な連携（コラボ）による相乗効果で一石二鳥を狙う。Win-Win（双方に利がある）であることや、犠牲者を出さないことが長続きのポイント！

おわり



本日はご清聴ありがとうございました

自治体のヘルスケア課題解決について

2025年2月18日

北海道経済産業局 健康・サービス産業課

1

目次

- (1) ヘルスケア政策の全体像
- (2) 北海道経済産業局の取組について

2

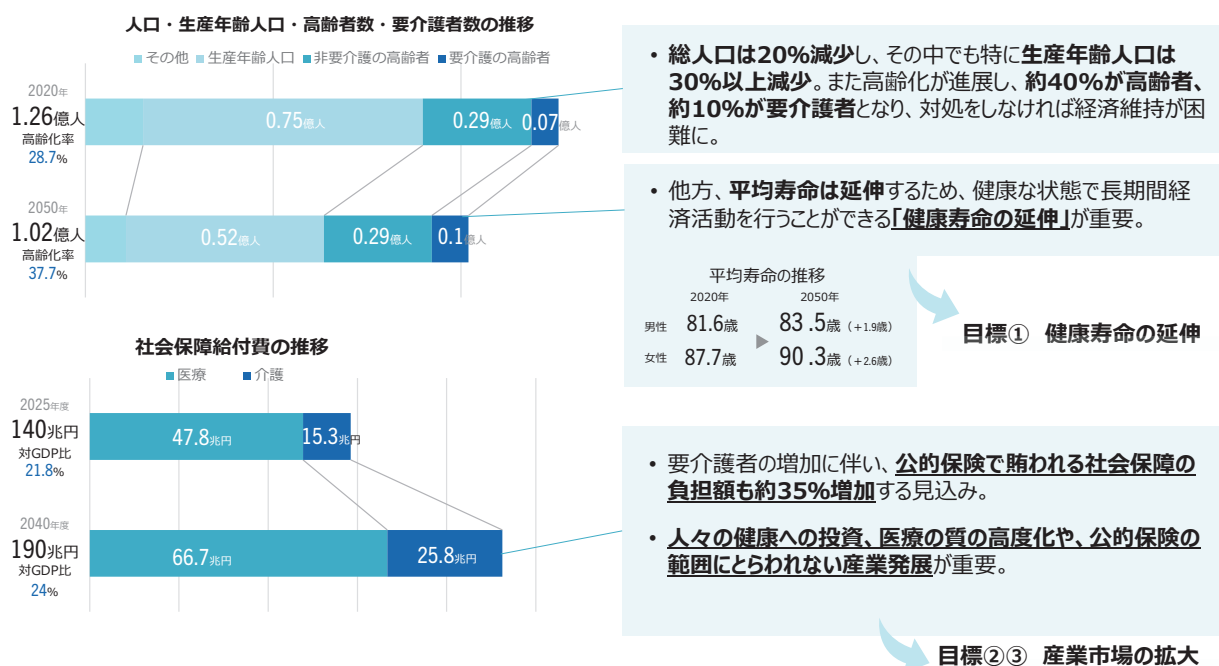
目次

（１）ヘルスケア政策の全体像

（２）北海道経済産業局の取組について

3

我が国が直面する課題と目指すべき方向性



（出所）人口・高齢化率については、国土交通省「2050年の国土に係わる状況変化」（令和2年9月）による。平均寿命については、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果による。要介護者については、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成29年推計）」、総務省「人口推計（平成28年）」、厚生労働省「平成27年度介護給付実態調査」統計表第3表 平成27年11月審査分より経済産業省作成による。社会保障給付費については、内閣府全世代型社会保障構築本部事務局「基礎資料集」（令和4年3月）による。

4

「新しい健康社会の実現」に向けて

ミッション

「国民の健康増進」「持続可能な社会保障制度構築への貢献」「経済成長」の同時実現に向けて、ヘルスケアにおける国内外の需要を喚起し、新たな投資を促す好循環を目指す

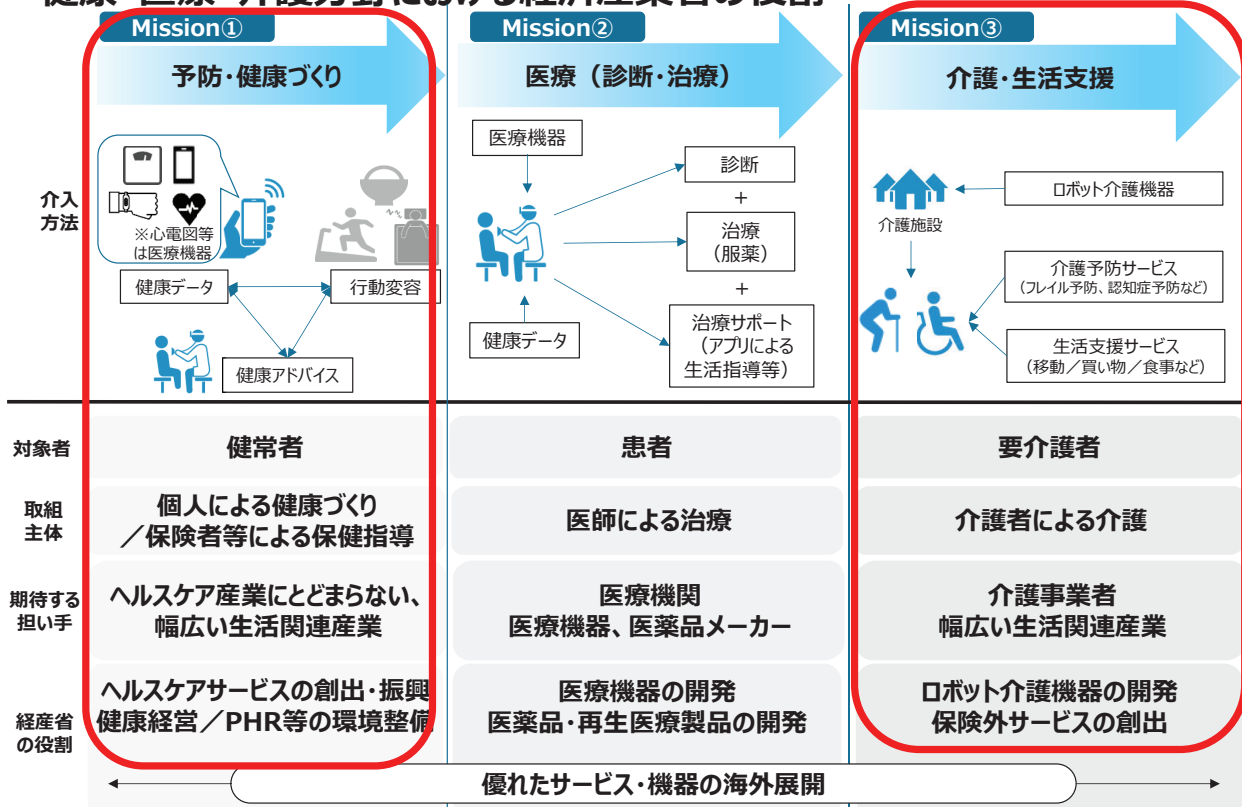


目標

- 健康寿命を**
2040年に**75歳以上**に
(2016年72歳から3歳増)
※厚生労働省「健康寿命延伸プラン」より
- 公的保険外のヘルスケア・介護に係る国内市場を**
2050年に**77兆円**に
(2020年24兆円から約50兆円増)
- 世界の医療機器市場のうち日本企業の獲得市場を**
2050年に**21兆円**に
(2020年3兆円から18兆円増)

5

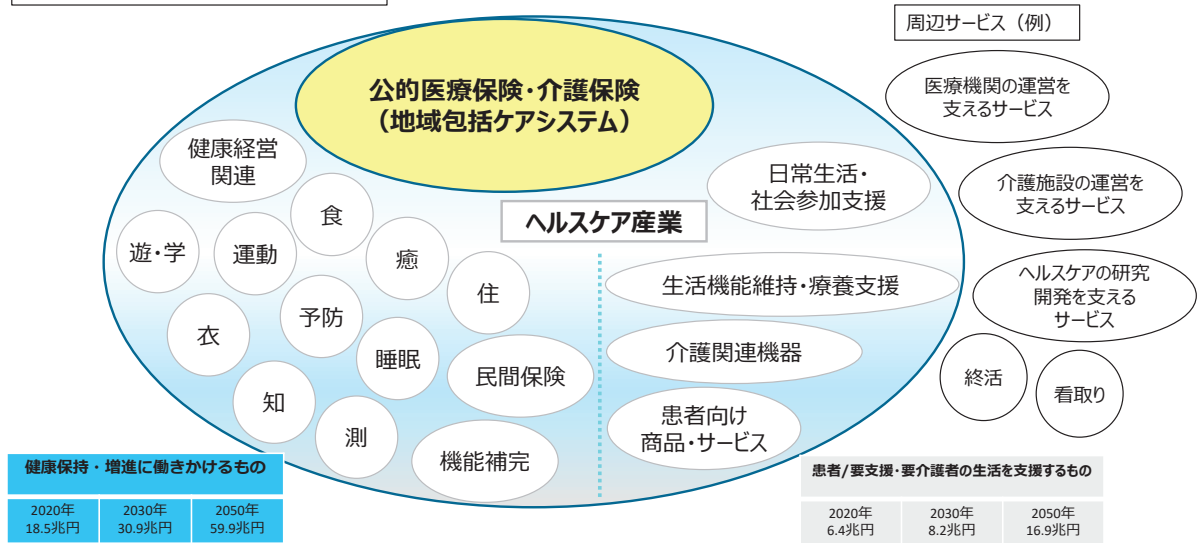
健康・医療・介護分野における経済産業省の役割



6

ヘルスケア産業市場について

ヘルスケア産業市場規模推計



ヘルスケア産業 = 健康や医療、介護に関わる産業のうち、個人が利用・享受するサービスであり、健康保持や増進を目的とするもの、または公的医療保険・介護保険の外にあって患者/要支援・要介護者の生活を支援することを目的とするもの
周辺産業 = 健康や医療、介護に関わる産業であっても、目的が異なるもの（例：看取りや終活）、個人が利用・享受するのではないもの（例：医療機関や介護施設の運営を支えるサービス、ヘルスケアの研究開発を支えるサービス）

出所：(株)日本総合研究所作成

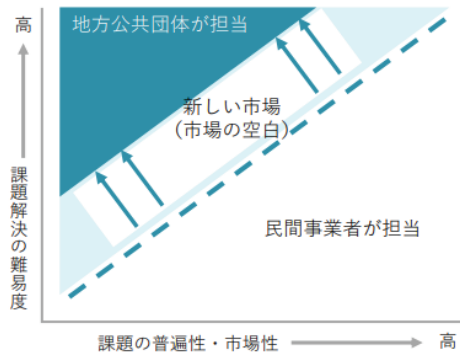
目次

- (1) ヘルスケア政策の全体像
- (2) 北海道経済産業局の取組について

官民連携促進の背景

- 行政の課題が複雑化・増加する一方で、財政は逼迫し、マンパワーは不足。
- 他方、デジタル技術等の活用により、企業が、ビジネスとして当該課題の解決に取り組める可能性があり、官民連携により実現性と持続性を高められる可能性がある。
- ヘルスケア分野も同様で、企業からの連携ニーズは高い。

官・民が担える領域の変化



ヘルスケア企業の声

- 地域の中で支援が必要な人にサービスを展開したい
- 実証を行い、最適化されたサービスを開発・提供したい
- 地域に展開するにあたり、接点がほしい
- 地域現場に通用するビジネスモデル化や、社会的信用力を向上したい

(出所) 関東経済産業局HP ガバメントピッチの概要 (https://www.kanto.meti.go.jp/seisaku/iryokiki/healthcare/r6fy_jichitai_venture_matching.html)

ガバメントピッチの概要

- 自治体が地域課題を整理・深掘りし、全国のヘルスケア企業に向けて発信。
- 全国の斬新な技術を持つ企業から、実効的な課題解決策を提案を受けて自治体と企業の共創型の官民連携を創出。

STEP1 課題の可視化

複雑な地域課題 → 可視化

実現したい未来から課題を特定！

STEP2 課題の発信（ピッチ）

ガバメントピッチ → 全国のヘルスケア企業

課題・ニーズ
熱意！

わかりやすく、熱意を持って課題を発信！

STEP3 解決方法の提案

アイデア・課題 → 寄り添い！

~~単なる製品紹介~~

製品紹介ではなく、解決に向けた提案！

STEP4 マッチング・実証協議

アイデア・課題 ↔ 尊重！

共創のマインドで連携！

(出所) 関東経済産業局HP ガバメントピッチの概要 (https://www.kanto.meti.go.jp/seisaku/iryokiki/healthcare/r6fy_jichitai_venture_matching.html)

ガバメントピッチでのマッチング事例

かすみがうら市 x 株式会社WELL BE INDUSTRY

ガバメントピッチ2022～ヘルスケア～

●地域ニーズ・課題

「**白い歯キラリ 笑顔あふれる健康の街へ**」
誰もが自分の白い歯【キラリッ】に自信を持って笑顔があふれるまちを目指すかすみがうら市。
20～30歳代に対して口腔ケアのアプローチができていない。対象者が自発的に歯科検診を受診することや継続的に正しいオーラルケアが行われる環境を整えたい。

●実証概要

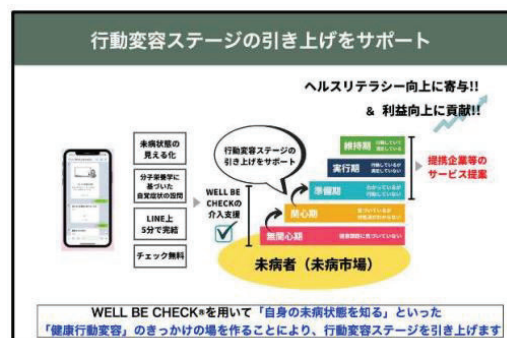
LINEで誰でも簡単に未病状態を数値化し生活習慣を最適化するツール「WELL BE CHECK®」を利用し自身の未病状態を知り、健康行動変容のきっかけの場を作ることにより、行動変容ステージを引き上げる機会を創出する。健康リテラシー向上に寄与し、歯科検診やオーラルケア等の自発的なアクションにつなげていく。

かすみがうら市（茨城県） <https://www.city.kasumigaura.lg.jp/>

口腔衛生無関心層にもっと歯の重要性や口腔ケアの重要性を周知し、誰もが健康で自信をもって笑顔があふれた人たちがいるまちを目指している。

株式会社 WELL BE INDUSTRY <https://www.wellbe-industry.com/>
[VISION]

【VISION】
未病産業の創出を通じて、すべての人へ健康を考えるきっかけを提供する



(出所) 関東経済産業局HP ガバメントピッチの概要 (https://www.kanto.meti.go.jp/seisaku/iryokiki/healthcare/r6fy_iichitai_venture_matching.html)

11

令和6年度ガバメントピッチについて

- 令和6年度ガバメントピッチ開催にあたって、2024年7月に関東経済産業局と全国の地方経済産業局で連携して参加自治体を募集。同年12月にガバメントピッチを開催したところ。



経済産業省
北海道経済産業局
Ministry of Economy, Trade and Industry
Hokkaido Bureau of Economy, Trade and Industry

ホーム > 公費連携：公の総合推進課 > 公費 / イベント情報 / バイオ・ヘルスケア産業：ヘルスケア産業振興 / 健康・サービス産業

検索

☞ 資料はこちら

令和6年度 カバメントビッチ参加自治体を募集します

～ 地域が抱える健康福祉分野の課題を共創型官民連携によって解決しませんか ～

募集を締め切りました

2024年7月19日
2024年11月25日更新
経済産業省北海道経済産業局

経済産業省北海道経済産業局では、健康福祉分野で課題を抱える自治体や、ヘルスケア企業等に対して地域課題やニーズを発表しマッチングする「カバメントビッチ」を、他地域の経済産業局と連携して開催します。

本イベントは、12月下旬の開催を予定しており、開催にあたり、登壇自治体を募集します。

また、本募集の説明会を開催します。

[2024年11月25日更新] カバメントビッチ開催概要およびスケジュールを更新しました。

カバメントビッチとは

カバメントビッチは、高齢社会において自治体が抱える健康福祉分野の地域課題と、ヘルスケア企業等の強みを結びつけることにより、地域課題を解決し、ヘルスケア産業を振興することを目的として実施します。

なお、本事業は、2021年度より関東経済産業局を中心として他地域の経済産業局が連携して開催しているものです。

♪カバメントビッチの概要 (PDF形式/686KB) ☞

カバメントビッチ開催概要 (24/11/25 update)

今年度は、ビッチの開催とともに、官民連携に知見のある専門家から講演いただくほか、本企面での連携事例を紹介します。

官民連携の組成にあたっては、本事業の特性やゴールの形に対する理解および連携相手との相互理解が重要なポイントであり、参加者の官民連携に関する理解の促進、連携に取り組みきつかけを提供します。



経済産業省
関東経済産業局
近畿経済産業局

共創型官民連携の最前線

×

ガバメントピッチ2024

～官民連携で切り拓くヘルスケア産業のミライ～

2024年12月24日火曜日
14:00-16:00 オンライン（Microsoft Teams）

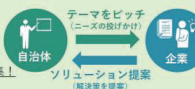
プログラム（予定）

第1部 共創型官民連携の最前線

- 基調講演（株式会社官民連携事業研究所）
共創型官民連携の特色やゴールの形、自治体、企業、支援機関それぞれの考え方を踏まえた事業の進め方等ポイントを解説！
- 連携事例紹介（松本市/ランドディー・アイ・ジー株式会社）
ガバメントピッチをきっかけに生まれた連携プロジェクトの展開を自治体・企業の立場からご紹介

第2部 ガバメントピッチ

- 課題発表 池田市（大阪府）
第1部を受けて、池田市が5つの課題（裏面）について提案を募集！



※開会後、希望者と池田市と当市の質疑応答の時間を設ける予定です。（16時から30分程度）

主催	関東経済産業局・近畿経済産業局
後援	関東信越厚生局・近畿厚生局（予定）
対象	ヘルスケア分野の課題解決に関心のある企業、自治体（地域、規模、業種等を問わずご参加いただけます。）

(出所) 左図：当局HP／右図：関東経産局HPより引 (https://www.kanto.meti.go.jp/seisaku/iryokiki/healthcare/data/r6fy_government_pitch.pdf)

12

北海道経済産業局での取組

- 道内自治体と道内外のヘルスケア関連企業等の共創により、ヘルスケア分野での地域課題の解決にヘルスケア関連企業の知恵やノウハウを活用する方策について調査を実施しているところ。

＜調査の目的・背景＞

【自治体（健康・福祉・介護分野）】

自治体では、行政の課題が複雑化・増加する一方で、財政は逼迫し、マンパワーが不足している状況下において、事業成果を高める必要性が益々高まっている。

→ 一方、効果的な事業創出・実施に向けて、民間のノウハウやサービスを十分活用できていないのでは？

【民間企業】

民間企業においてデジタル技術等の活用により、行政の課題を解決しうるサービスは存在。

→ 一方、民間の技術・サービスの情報不足や、行政の課題と商品・サービス内容のミスマッチ等により、自治体への導入が十分進んでいないのでは？

【行政ニーズ・課題と民間サービスのマッチングの動き】

首都圏では課題を抱える自治体が企業等に対して、地域課題やニーズを発表しマッチングする「ガバメントピッチ」が開催され、自治体と企業とのマッチング事例も徐々に生まれている。

→ 一方、ヘルスケア企業等が多く集積する首都圏と地方では、その仕組みや手法は、異なることが想定される。

自治体とヘルスケア企業等の共創により、地域課題解決とヘルスケア産業の振興を図る先進的な手法について調査し、北海道内での効果的な実施や仕組み化に向けた課題の抽出を行い、今後、官民共創に向けた取組を北海道で実施するにあたっての最適な方策について検討を行う。

官民共創の仕組み・手法に関する調査（文献調査・ヒアリング調査）

自治体を対象としたニーズ調査（アンケート・ヒアリング調査）

道内外ヘルスケア企業を対象としたニーズ調査（ヒアリング調査）

江差町 生活支援体制整備事業

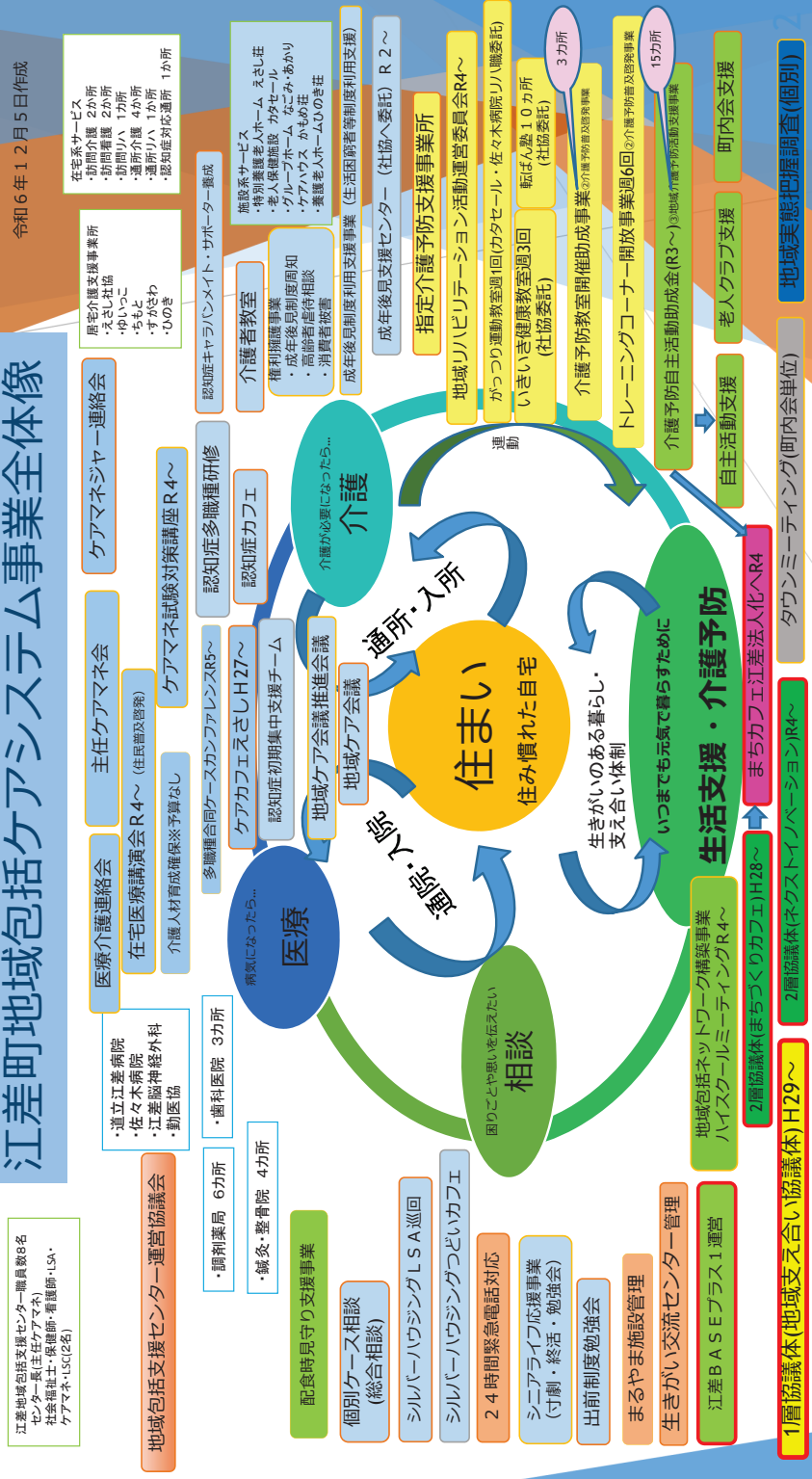
令和7年2月18日(火)

令和6年度地域づくり加速化事業・ブロック別研修(北海道ブロック)

事例発表資料

江差町役場高齢あんしん課 畑 明日香

江差町地域包括ケアシステム事業全体像



第1層協議体の歩み

目的: 互助を目的に地域づくりを住民主体で進め、助け合い活動(仕組み)を共に創出・充実すること

取組: 選出された構成委員が、地域づくりを住民主体で進めていくための方法を検討し、具体的な提案を行う

●1年目(H29年度)

本格稼働前の学習年度⇒江差町第1層協議体スタイルを確立

●2年目(H30年度)

地域の担い手不足⇒第2層協議体まちづくりカフェとの運動

●3年目(R元年度)

買い物情報表を作成・モニター調査⇒買い物困難課題に注目した分析

●4年目(R2年度)

地域課題の洗い出し⇒高齢者に今一番必要としている資源について優先順位を確認

●5年目(R3年度)

地域資源の調査・情報の選別⇒地域資源ガイドブック作成

●6年目(R4年度)

移動手段での困り事への対応策検討⇒バス及び江差マース(町単独事業)を組み合わせて、移動計画作成⇒実証実験

●7年目(R5年度)

移動と担い手に注目⇒公共交通の達人に目指して実際に委員がバス体験⇒既存の資源を大切に。公共交通ガイドブック(バス編)完成!!!

●8年目 (R6年度)

バスガイドブックを基により分かりやすく町中に広めるための取組⇒協議体委員+地域の方々の協力で作成

youtubeにもアップ



第1層協議体...成果物の紹介①

令和元年度

令和2年度

令和3年度

令和4～5年度

令和5年度

[illegible]



江佐町地域資源マップ



もしも〜し
JICA

 1号校舎 1号校舎 1号校舎	 2号校舎 2号校舎 2号校舎	 3号校舎 3号校舎 3号校舎	 4号校舎 4号校舎 4号校舎	 5号校舎 5号校舎 5号校舎
---	---	---	---	---

※委員さん作成(案)

[illegible]

● ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

困った時には！

江 差 町 地 域 資 源

ガ イ ド ツ ッ ク

町民会館です！

みはさんの
母がしていい

[illegible]

第1層協議体...成果物の紹介②

そして今年度...

令和6年度



江差町第1層協議体のキーワードは、「みんなで考える」
思ったことを言い合い、協議体活動は委員とコーディネーターが力を合わせて行うことを大切にしながら進めています。
私たちの町に必要な資源は、私たちが「知り」「考え」「作る」こと。初年度に決めた江差町地域支え合い協議体スタイルは8年経ってより醸成されていることを感じています。

- ①江差町オリジナル動画考案
 - ②たたき台作成共有
役割分担
 - ③動画作成に向けたスケジュール
協力者・団体の確認
 - ④音声等についてのアンケート分析
※お年寄り・小学生聞き取り
上映会やバス体験会企画
 - ⑤動画完成確認・体験会アンケート分析
youtubeへのアップ協議
※他制度への理解学習(福祉有償運送)
- 次の回は次年度スケジュール確認です。



バス簡単乗り方ガイド
(YouTube)

第2層協議体の歩み(まちづくりカフェ編)

目的:小さな困り事は、町のみんなで解決できるように、支え合える体制を築き上げること

取組:町民が主体となって、理想の地域を目指し、誰もが活躍できる活動を行っていく

●1年目(H28年度)

地域の暮らしの中での困り事にブレインストーミング⇒プロジェクト形成・企画

●2年目(H29年度)

プロジェクトの試行⇒実際に思考したことで課題が見えた

●3年目(H30年度)

役場を飛び出し、自走の予感⇒楽しいだけの活動ではなく、互助を見つめ直す

●4年目(R元年度)

活動拠点を掴み取った!⇒町民の皆さんが自由に使える場所で活動に幅(多世代・町内会とコラボ)

●5年目(R2年度)

新しい生活様式の導入⇒チーム活動の活性化(自走始動)

●6年目(R3年度)

住民主体の活動本格化への準備⇒組織化が明確に

●7年目(R4年度)

NPO法人化⇒地域の食を支える事業・健康づくり事業・その他事業(会員相互の交流を図る事業・物品販売)

●8年目(R5年度)

事業展開⇒地域食堂開設(月1回)・ラジオ体操(6～10月の間、毎週土曜日)・ダンス(毎週水曜日)・交流事業

●9年目(R6年度)

事業継続⇒ちつと地域の中で支え合える活動を考えていきたいという声・・・



第2層協議体(まちづくりカフェ編)

平成28年度

まちづくりカフェ初年度
 ●テーマ：もっとこのまが好きになる!○○プロジェクトをデザインしよう
 ●内容：物づくりPJ・自給自足PJが立ち上がる3回目から中高生も参加

令和元年度

まちづくりカフェ4年目
 ●開催5回+成果報告会1回+パ°-ティ1回
 ●テーマ：地域の暮らしを支える資源づくりへの展望と課題
 ●内容：活動拠点を手に入れ、各PJの代表者部会開催番外編まちカフェを開催し「自身が感じる地域課題」「活動拠点の活用方法」を考えるパ°-ティP Jが更に追加

平成29年度

まちづくりカフェ2年目
 ●開催5回+成果報告会1回+パ°-ティ1回
 ●テーマ：繋げていこう!みんなのプロジェクト!
 ●内容：物づくりPJ・自給自足PJ・江差ウォーカーズPJ
 試行を積み重ね、0円食堂や町内散策など実施

令和2年度

まちづくりカフェ5年目 ※コロナで中止2回
 ●開催4回+成果報告会1回+番外編まちカフェ1回
 ●テーマ：“新スタイル”今できる「人と人との繋がり方」
 ●内容：縁結びから縁結びへ。事例検討も実施
 各チーム活動が盛んに展開

平成30年度

まちづくりカフェ3年目
 ●開催5回+成果報告会1回+パ°-ティ1回
 ●テーマ：飛び出そう役場から!
 ～まちづくりカフェを継承していくために～
 ●内容：物づくりPJ・自給自足PJ・江差ウォーカーズPJ・蔵PJ
 PJ活動がどんな互助効果があり、どんな手助けになるかをシートを使って検証

まちづくりカフェ
 の展望を提示

令和3年度

まちづくりカフェ6年目 ※コロナで中止1回
 ●開催3回+成果報告会1回
 ●テーマ：住民主体の組織化へ
 ●内容：各PJが一体となり、まちカフェ運営へ組織化への議論・項目の協議・一同に介して意見を交わした

設立後、包括は理事
 会に参加させて
 いただいています。

NPO法人まちカフェ江差設立

LSC製作したポスターもご覧ください!



拠点の整備・机椅子は
 みんなで手作り企画

第2層協議体の歩み(ネクストイノベーション編)

目的:町の中にある既存の団体同士がコラボレーションすることで新たな価値を生み出す

取組:多様な団体同士や個人が協力し合うことで、お互いが活性化し、高齢者の生活支援にも繋がっていくこと

●1年目(R4年度)

既存資源の洗い出し・魅力の発見・課題の共有・・・町には資源が無数にあったことへの気づき

●2年目(R5年度)

4つのプロジェクト設立...まずなPJ・人材バンクPJ・命を守るPJ・CHOBETTO PJ
 プロジェクトの試行【各プロジェクトの課題と年度ゴール】
 ●まずなPJ...【課題】地域との繋がりが減少、子どもも減って話す機会が少なくなった

【ゴール】色々な人が交流できる場を作る

●人材バンクPJ...【課題】色々な活動を進めたくても人手がない

【ゴール】人手が欲しい事の発信と見つかる仕組み（発信方法の確立）
 ●命を守るPJ...【課題】災害時の対策が心配
 【ゴール】災害時を想定できるようになり、対処すべき事への計画作成
 移動手段を確立させ、家族・近隣と共有し不安感軽減

●CHOBETTO PJ...【課題】店内院内一人では歩けない。ちょっとした困り事を頼めると助かる

【ゴール】必要時には買い物支援を受けられる

●3年目(R6年度)

現在進行中...各プロジェクトが試行を重ねたり、PJ同士を掛け合わせてさまざまな反応が！
 プロジェクト毎に多様なカラーとなり、今年度のゴールに向けた取り組みが進んでいます。



NEXT_ESASHI



第2層協議体の歩み(ネクスティノベーション編) ★令和6年度成果報告会★

- ▶ 日 時：令和7年3月13日(木) 18:30～20:00
- ▶ 場 所：コミュニティプラザえさし エコー♪
- ▶ 内 容：①開会
- ▶ ②LSCより当事業の趣旨(1層協議体の内容も踏まえて)
- ▶ 会場参加者(社協)より他町視察の感想(2層協議体との協働も踏まえて)
- ▶ ③町長から参加者へ感謝状交付
- ▶ ④各プロジェクトから1年間の活動報告と今後の抱負発表
- ▶ ⑤3年間参加協力した高校生へ卒業のお祝い
- ▶ ⑥講評(各団体及びLSCヘインタビュー方式で感想後、講師より講評)
- ▶ ⑦アンケート記入
- ▶ ⑧集合写真
- ▶ ⑨閉会

ご清聴ありがとうございました！

町のために、一緒に頑張りましょう！是非、観光にもお越しください。



令和6（2024）年度 美唄市生活支援体制整備事業実践報告



美唄市役所地域包括ケア推進課 **美しき唄のまち**
主任 高橋 大介 **美唄市**

BIBAI CITY

美唄市生活支援体制整備事業の流れ

美唄市生活支援体制
整備事業(H29～)

令和5年度
地域づくり加速化事業
(厚生局主導型)

美唄市生活支援体制
整備事業(R6～今後)

事業に参加

「3つの枠組み」で美唄市を報告します

美しき唄のまち
美唄市
BIBAI CITY

高齢者統計

- ・高齢者数 8295人 (R6.5末)
- ・高齢化率 44.2% (R6.5末)

介護保険認定率

- ・前期高齢者認定率 5.2%
- ・後期高齢者認定率 37.3%

美唄市の特徴

- ・特別豪雪地帯・旧産炭地
- ・平成16年から続く貯筋体操

「美唄市の強み」⇒「貯筋体操」

「貯筋体操」⇒「市内に最大30もの自主グループが活動展開」

「地域に既にある強み」⇒「まだ何か、他に必要？」



平成29年新米SCとして私の **1つ目の失敗**



町内会での支え合いを考えてみませんか？
**ご近所さんが困っていることは
自分も同じかもしれない？**
～ちょっと手伝えることがあるかもしれない～

平成29年7月8日(土) 10:00～12:00

場 所 総合体育館 サブアリーナ

対象者 町内の高齢者の皆様、
町内で高齢者の皆様に関わっている方。

参加費 無料 (上靴をご持参ください)

★事前申し込み不要 ★お気軽にご参加ください



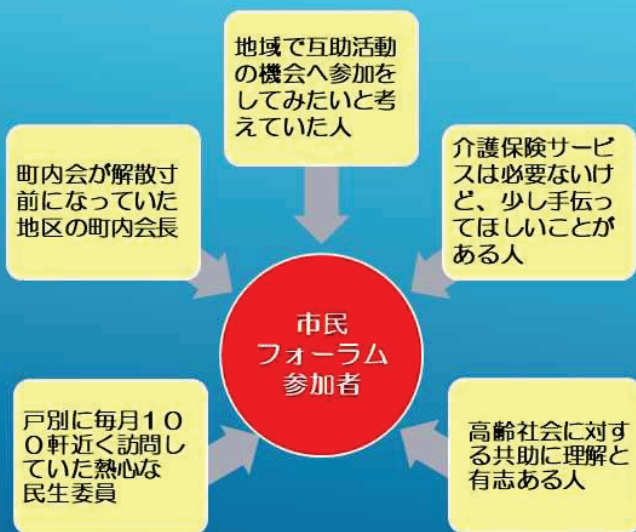
【内容】

【日時】

意気揚々に開催した平成29年の市民フォーラムだったが・・・
地域の互助活動に興味のある方、町内会、老人クラブ、民生委員、
貯筋体操グループ、各種サポーターなどへ幅広くチラシ配布し準備万端・・・
結果は高齢者が約8000人住む街なのに参加者は34名・・・
市民フォーラムは失敗に終わったと思った

平成29年新米SCとして私の **2つ目の失敗**

市民フォーラムは**失敗**だと思い込んでいたが・・・



地域で支え合う必要性を理解し、地域と繋がる行動を率先して実践している人や、5年後～10年後を不安に思う人が市民フォーラムに多数参加していた。

失敗だと思っていたが、実は成功のヒントに繋がっていた

事業を業務委託する決断をした時、美唄市が心得ていたこと

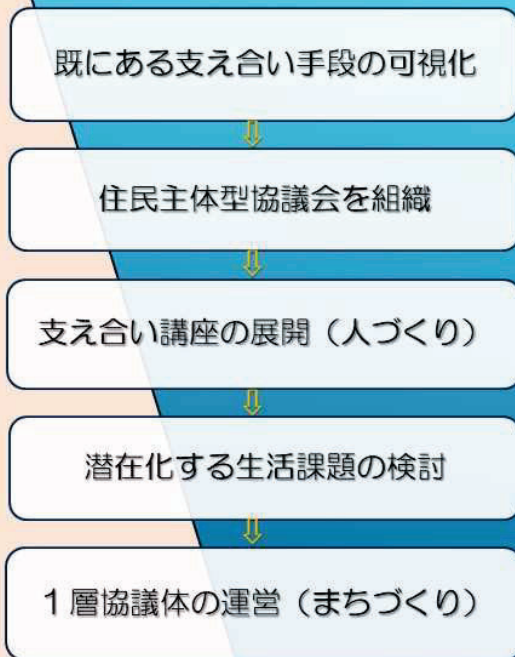
平成29年、平成30年直営包括で事業実施。後に委託先となる社協には、**数多く失敗を見てもらえた。**

生活支援体制整備事業実施初年度から事業委託せず取り組んだことで、**市担当者もSCの視点を学んだ。**

実際に事業を展開するSCの大変さをわかっていた。事業委託して**委託先に事業丸投げをしたくなかった。**

事業委託後～現在も毎年の**事業計画策定と進捗管理は市が担当し、SCの描く活動を全面的に後援した。**

事業委託後も直営包括所属の市職員とSC兼務者2名が引き続き参画し、**共に事業を構築**している。



美唄市生活支援体制整備事業 5つの基本事業

平成29年～左記のサイクルで5つの事業を展開しています。

1層協議体の運営は**毎月開催**し、課題検討するテーマに合わせて、庁舎内他課とも連携を図り、必要であれば会議構成メンバーではない有識者を招集して課題検討と共有から解決を図る場にしています。

平成29年から令和4年までの主な美唄市生活支援体制整備事業

平成29年 美唄市生活支援体制整備準備室

発起人（市民フォーラム参加者）と市内2町内会が合同で住民参加型協議会を設立

平成30年 美唄市生活支援体制整備事業運営

住民参加型協議会の中でサロン開設

有志ボランティア10名（市民フォーラム参加者）が主体で美唄市生活便利帳第1版発行

平成31年 美唄市社会福祉協議会へ生活支援体制整備事業を業務委託&SC専任

生活支援体制整備事業第1層協議体に構成団体（市民フォーラム参加者）を追加

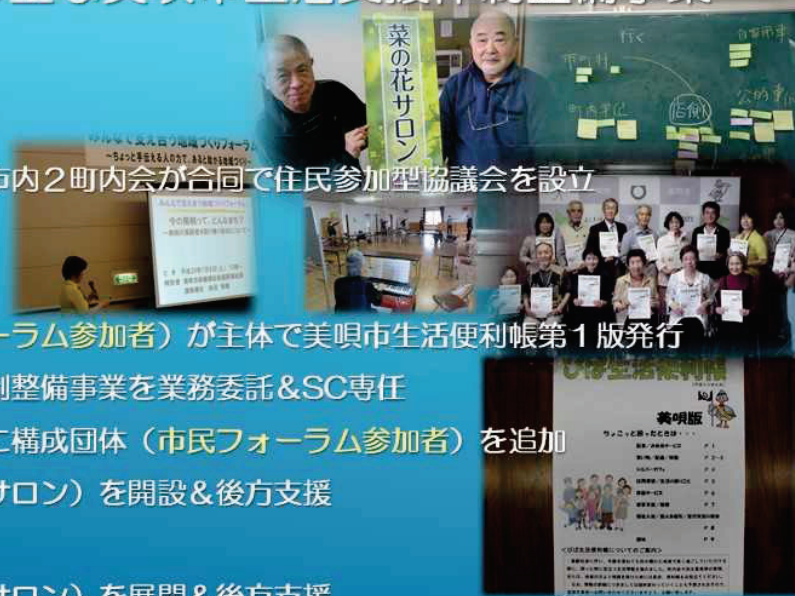
令和2年 市内合計6か所の地域で集いの場（サロン）を開設&後方支援

美唄市生活便利帳第2版の発行

令和3年 市内合計8か所の地域で集いの場（サロン）を展開&後方支援

第2層協議体となる有志ボランティア会議（市民フォーラム参加者）の運営

令和4年 新たに住民参加型協議会の立ち上げを目指し1地区で支え合い講座の実施



H29～事業計画に沿って生活支援体制整備事業を展開。



事業委託する「美唄市」と受託する「美唄市社会福祉協議会」で計画的な事業進捗を目指してきた。



活動する中で、事業の本質は我々が主導的に展開する集いの場（サロン）ありきの事業ではないと確認する。



生活支援コーディネーター（専任）の活動内容に悩みが生じる。



SCが自信をもち地域づくりができるよう保険者として協力したい。SCの活動展開が加速するようなきっかけが欲しい。



令和5年度地域づくり加速化事業（厚生局主導型）参加申請

地域づくり加速化事業とは？

厚生労働省
北海道厚生局主導型事業

- ①有識者による市町村向け研修（現地支援＋オンライン支援）
- ②総合事業の実施に課題を抱える市町村へ都道府県や厚生（支）局、アドバイザーなどの第三者が**伴走的支援の実施**等を行う
- ③市町村支援によって目指すのは、少しでも地域づくりが前に進み、そのまちの高齢者の暮らしを支えることにつながることで、そしてその体験をもとに市町村がさらに自律的に地域づくりを進めていけること

参加してみて感じたこと

- ・美唄市の課題解決に対して伴走的に支援し、美唄市生活支援体制整備事業の実情や思いを理解し、良さ・強みを引き出す支援を受けることができる。
- ・美唄市生活支援体制整備事業が中長期的なビジョンをもって自走できるようサポートを受けることができる。

“ 地域づくり加速化事業で美唄市が支援を受けたかったこと ”



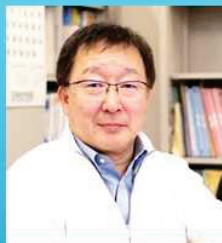
美唄市生活支援体制整備における課題山積地域（茶志内地域）へのSC活動支援 ”

（茶志内地域とは？）

- ・ 屯田兵が国道12号線を開拓する際にできた地元へのプライドの高い地域
- ・ 2つの炭鉱で栄えたが、現在は地域に買い物できる場所もなく、バスも廃線になった地域

（過去と現在の比較）

- ・ 石油コンビナート工業地帯、温泉、農協支店、小中学校、JR支線、地域医療を担う病院、バス路線など、地域からあらゆる資源が無くなった地域
- ・ **町内会の統廃合と老人クラブ連合会の解散によるSOSが住民から出ていた**



「美唄市全体の取組の振り返りや社協も含めてやってきたことをテーブルに並べて共有してはどうか。美唄市の皆様が評価されている以上にやっていることがたくさんあると思う」
（0.5次オンラインミーティングより抜粋）

事業アドバイザー

特定非営利活動法人
全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）
地域支え合い推進センター 橋本 泰典 様

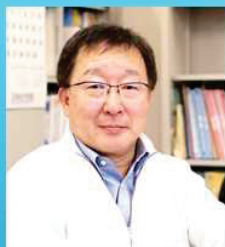
令和5年 10月2日 美唄市の地域アセスメント（1回目支援）

1. 令和5年度美唄市生活支援体制整備事業報告
2. 第9期美唄市高齢者福祉計画・介護保険事業計画（素案）報告
3. 地域づくり加速化事業にて伴走型支援を求める茶志内地域のアセスメント報告

地域の中でこれまで意識されず自然に存在してきたような
ナチュラルな資源一つ一つの強みや大切さに目を向けていく



伊藤真美
職員



事業アドバイザー

特定非営利活動法人
全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）
地域支え合い推進センター 橋本 泰典 様

「1回目で現地支援した際に感じたのは、社協へ委託しているSCがもう少しサロン以外に活動の目を向けて地域を歩くという動きが取れるようになることが大事なポイントだと思う」
（1. 5次オンラインミーティングより抜粋）

令和5年

12月22日 美唄市の地域アセスメント（2回目支援）

1. 茶志内地域での住民座談会の開催（雪害で延期）
2. 茶志内地域のお宝探し報告会（雪害で延期）
3. 茶志内地域住民の皆さんとグループワークにて地域づくりの木を描く（雪害で延期）

生活支援コーディネーターは人の声を拾う、住民側の人間になる、普段何気なくあるような繋がりに意味づけを行う、などの視点が必要。

生活支援コーディネーターは、住民の皆さんに困りごとが生じた時に、早めに相談できる人はどんな人が想像する。

美しき唄のまち

美唄市

BIBAI CITY



地域の交流広場
「ふれあい倶楽部」



事業アドバイザー

特定非営利活動法人
全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）
地域支え合い推進センター 橋本 泰典 様

「住民の動きや茶志内で感じた地域の中にすでにあるものを捉えつつ10年先の姿を見ていく」
（2. 25次オンラインミーティングより抜粋）
「生活支援体制整備事業は、当事者の力を引き出すもの。コーディネーターはこういうところに刺さっていく」
（2. 5次オンラインミーティングより抜粋）

美唄市の地域アセスメント（オンライン支援）

（2. 25次ミーティングでの支援チームからの助言）

1. 茶志内地域の住民は10年先にどんな風に暮らしていきたいか、どう暮らしたいか
2. 茶志内地域の皆さんがわかりやすいキャッチフレーズを一緒に地域へ浸透させる
3. 茶志内地域の中に既にある互助の関係性を捉える
4. お宝さがしのワークは、住民の声を聴いてそれを何につないでいくかが大切

（2. 5次ミーティングでの支援チームからの助言）

1. 生活支援体制整備事業は、当事者（住民）の力を引き出すもの
2. 何度も足を運んで話を聞いてくれるコーディネーターは地域側の人間になっている
3. SCと一緒にやってくれるという伴走者にならないと、住民に力を発揮してもらえない
4. 知っているようで知らない、知っているようで誤解していることをお互い知り合う
5. 地域の中で知らない地域に気づくこと、これが地域資源のマッチングとなる

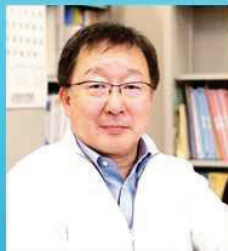
美しき唄のまち

美唄市

BIBAI CITY



細谷由美
コーディネーター



事業アドバイザー

特定非営利活動法人
全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）
地域支え合い推進センター 橋本 泰典 様

「地域と専門職がしっかり協力し合い、地域の中での対応力を維持していく。今日の話でも茶志内地域の中には自分たちの地域を守ろうという思いが見えていた。これ以上住民に何かやってもらおうというのは難しいが、彼らが持っている地域力を少しでも長く維持していく」
（3回目支援後のミーティングより抜粋）

令和6年
3月11日

美唄市の地域アセスメント（3回目支援）

1. 茶志内地域での住民座談会の開催
2. 茶志内地域のお宝探し報告会
3. 茶志内地域住民の皆さんとグループワークにて地域づくりの木を描く

2回目支援日が延期になり、市・社協が合同で茶志内地域の再アセスメントに注力できた。
戸別訪問から一人ひとりの住民の生活を垣間見る時間が確保できた。茶志内地域の歴史から
紐解き、これまでに住民の皆さんが経験してきた立場から地域の理解を深められた。



加速化事業前の視点

- ・ 専門職目線での分析
- ・ 弱みを整理し、課題解決を先行
- ・ 現在、形のある繋がりに着目
- ・ 集いの場に出向き顔をつなく視点

加速化事業後の視点

- ・ 住民目線での分析
- ・ 強みと弱みを整理し、お宝（個性・特性）探し
- ・ 地域の歴史・文化を学び、関係性ある繋がりに着目
- ・ 普段の生活の場に出向き共に考える視点

保険者としての心得

保険者は、SCの取り組みを先導・先行するだけではなく、後押しするだけでもなく、計画、実践、評価、すべての場面に伴走する。

「生活支援コーディネーターが地域で把握すべきこと」を保険者も理解しておく。



生活支援体制整備事業＝「次世代までつながるコト（体験）づくり」 SCの視点が変わる＝「地域が変わる」保険者とSC＝「伴走する」

地域づくり加速化事業で学んだことは、私たちが思っていた課題のようなものは、地域の皆さんにとって最優先かつ喫緊の課題ではなかった。

- ・公共交通機関（バス路線）の廃止⇒近所の助け合いでなんとかできてるよ
- ・町内会と老人クラブの解散⇒近所の助け合いでなんとかできてるよ
- ・買い物できる場所が必要⇒近所の助け合いでなんとかできてるよ

・いろいろ無くなって困ったけど、やっぱりこれまでと同じように皆で顔を合わせる場がなくなったことが一番寂しい。

⇒地域にじっくり溶け込むことでようやく見えた生活支援に必要なこと。

⇒この地域では〇〇が必要だと個別支援的な地域アセスメントが必要になる。

令和5年度地域づくり加速化事業 ・・・その後

地域からのSOSは地域の強みへ

市SC、社協SCが茶志内地域からのSOSの声を受け取る



課題山積な茶志内地区の歴史背景や人物の関係性を把握するため地域訪問



市と社協が協働して多角的視点で地域にお邪魔した（約6か月間）



訪問により顔が見える関係になり、とても速くSCの人脈&視野が広がる



市SCや社協SCへ遠慮なく声をかけ相談でき、住民のアイデアが広がる



住民自らが決めることで背伸びせず自分たちにできることがわかる



会の役員も必要ない、会計も自分たちで、自立型組織の運営をスタート

老人クラブ解散に変わる集いの場所（サロン）立ち上げ

老人クラブ解散で1度は諦めた伝統芸能を復活

地域プロ野球リーグの球団選手との世代間交流開始

茶志内地区の強み



独立リーグプロ野球チーム
美唄ブラックダイヤモンド本拠地

茶志内伝統芸能「鉾子踊り」の復活

今後の茶志内地域の可能性

地域づくり加速化事業について「月刊厚生労働」雑誌に掲載



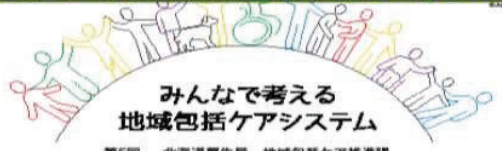
地域包括ケア漫画
(第1弾) 紹介



●セロンが認知症予防のゲームをしてる様子



「野原体操」を行う市内の自主グループ「ゆたか助産クラブ」のメンバー



第5回 北海道厚生局 地域包括ケア推進課

2016年から全国8カ所の地方厚生(支)局(以下、厚生局)に設置された「地域包括ケア推進課」は、各地域の地方自治体に対して「地域包括ケアシステム[®]」の構築支援を行っています。本連載では、その業務をお伝えします。

地域包括ケアシステム[®]とは

組織の世代が75歳以上となる2025年以降は、貴重な知見経験者となるが、高齢者が退職する傾向が強い。

伴走していただきありがとうございました！

「葉の花サロン」は、佐藤主演

[illegible]

審判官が現れ点が入る
地獄つくりのヒン
(2012年12月と初)
「機り」の方向の伴
より具体的方法論
展開準備をきいてく
野田は、北へ向かう
野田城を築く。ア
開闢さなうエー
「ど」の地域も高
い、地域生活を支え
り、不安をあてとい
ような客観視地点が
でも地獄つくりのヒ
これを離れて、
これを受け、問市
道標する赤十字善
群長。

「今、今回の食で、モ
ブ」ができた。大き
こころでかと思ひ
をはじめ、夢を描
域のパスをといたた
威の人たちと共に
あげてはいないかを
た」と思ひます」

法人、全国「コミュニティ・デザイン」

半年間寄り添い
伴走して下さった
支援チームの皆様

【岡崎市】人口：1万9,097人
高齢化率：約44%
(2022年9月末時点)

「訪問型サービスCの立ち上げ」

様似町保健福祉課
課長補佐 兼 保健推進係長 中村 将志

～様似町はこういうところ～

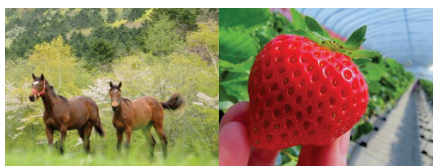
・水産業



昆布漁

鮭定置漁

・農業



軽種馬

いちご



【令和6年12月末の状況】

- ・人口 3,777人
- ・世帯数 2,031世帯
- ・うち高齢者人口 1,649人
- ・高齢化率 43.7%
- ・出生数（令和6年次） 7人

アポイ岳ユネスコ世界ジオパーク

www.apoi-geopark.jp



アポイちゃん



カンランくん

○訪問型サービスCについて、なぜ立ち上げようと思ったのか、その経緯

- ・ 事務分掌の変更
- ・ 世の中は依然コロナ禍
- ・ 突然の人事異動
- ・ 作業療法士の雇用

○令和5年度の介護予防普及展開事業を受けた内容と、町の気づきなど



○令和5年度の介護予防普及展開事業を受けた内容と、町の気づきなど

- ・おかげ様で無事採択されました！

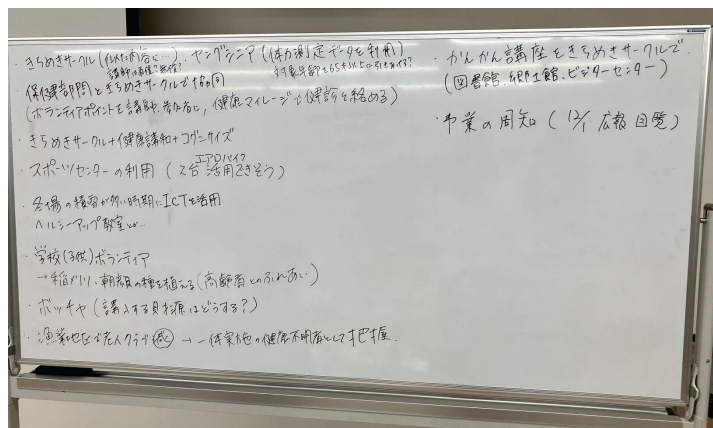


○普及展開事業 支援の内容とスケジュール

R5.2.28	オリエンテーション（web）	・自己紹介 ・支援の流れとスケジュール確認 ・関係機関の連絡先一覧の作成
R5.8.24	0.5m（web）	・町の抱えている問題について確認 ・現地支援①に向けて確認事項の整理
R5.8.30	現地支援①	・町の概要説明 ・町の目指す姿のディスカッション ・介護予防ケアマネジメント研修（急遽実施）
R5.9.28～ 10.23	様似町暮らしのニーズ調査 （町民アンケート）	・通いの場のほか、町事業参加者 64名（対象 109名） ・65～84歳から無作為抽出 230名（対象 500名）
R5.11.15	1.5m（web）	・暮らしのニーズ調査の結果報告 ・現地支援②に向けて確認事項の整理
R5.11.27	現地支援② ※教育委員会からも参加	・他市町村の取組事例の紹介 ・介護予防事業や具体的な取組計画について意見交換 ・介護予防、生きがいづくりに関する講話 ・保健、教育各部門の事業紹介 ・通いの場の充実に向けた取組内容について意見交換
R5.12.20	1.5m（web）	・現地支援②後の進捗状況の確認 ・現地支援②に向けて確認事項の整理
R6.1.19	現地支援③	・町の進捗、検討状況の報告（サービスCや介護予防教室の素案） ・町からの質問事項に回答、制度設計におけるポイント解説 ・サービスCの特徴を踏まえた対象者の状態像整理や選定について講話 ・サービスCを活用した介護予防事業、自立支援等の取組について意見交換 ・今後の方向性の整理

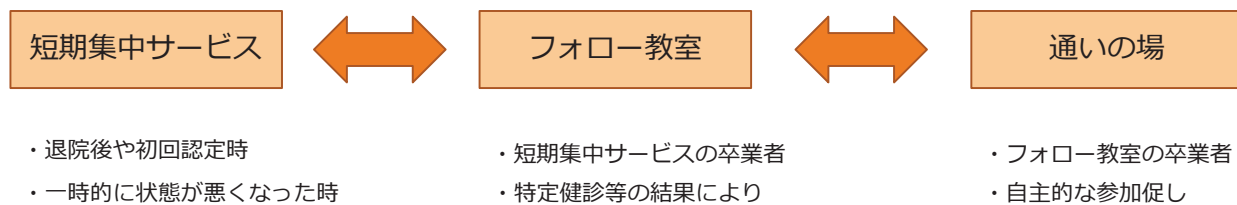
○令和5年度の介護予防普及展開事業を受けた内容と、町の気づきなど

- ・問題点の洗い出し



○令和5年度の介護予防普及展開事業を受けた内容と、町の気づきなど

- ・ 支援により決まった方向性



支援者の皆さん、ありがとうございました！



○令和6年度からの新規事業

- ・ 通いの場お悩み相談会
- ・ 介護予防教室「きらくらぶ」
- ・ 訪問型サービスC「ココカラ応援サポート訪問」 ※試験運用

○訪問型サービスCについて、今後立ち上げを計画している自治体様へ

- ・ アンケート調査は重要
- ・ 素案をもとに議論を深めよう
- ・ 先輩（他自治体）の取組を参考に

～視察研修（R6.7.22～7.24）

滝川市 様、深川市 様、歌志内市 様（順不同）

お忙しい中のご対応、ありがとうございました！

- ・ 他部署との連携も進めよう

ご清聴ありがとうございました！

